

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

| | | | | | | | |
|-----------|--|--|----|----|-----|-------------|------------|
| 指定期間 | ふりがな | やまなしけんりつこうふ だいいち こうとうがっこう | | | | ②所在都道府県 | 山梨県 |
| 26～30 | ①学校名 | 山梨県立甲府第一高等学校 | | | | | |
| ③対象学科名 | ④対象とする生徒数 | | | | | ⑤学校全体の規模 | |
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 計 | 普通科3学年18クラス | |
| | 普通科 | 40 | 40 | 40 | | 120 | 英語科3学年3クラス |
| 英語科 | 40 | 40 | 40 | | 120 | | |
| ⑥研究開発構想名 | テーマ「主体的に課題を解決できる山梨発グローバルリーダーの育成」 | | | | | | |
| ⑦研究開発の概要 | 「今後のグローバル戦略について、日本の第1次・第2次産業を中心に、その現状を世界的な評価を含め調査分析し、提案、実行する」ことを研究の柱とし、日本を代表する山梨のワイン、桃等、地場産業品、伝統工芸品、第1次産業の活性化を対象に、グローバルな商品開発を行うとともに、それぞれの社会的課題について探究し、その成果を提案、実行する取組を行う。 | | | | | | |
| ⑧研究開発の内容等 | ⑧-1全体 | <p>(1) 目的・目標</p> <p>本校は創立133年を迎えた山梨県随一の伝統校であり、様々な伝統行事を通じて多くの有為な人材を輩出してきた。近年は、何ごとに対しても真面目に取り組むが、自ら考えて行動する積極的な生徒が年々減少してきており、グローバル化が急激に進む現代社会で活躍できるかについては課題が残る。そこで、SGHの導入により、高校生段階で世界の人々と関わり、世界を舞台に主体的に課題を解決し、地元の山梨や日本の社会に貢献し活躍できる人材を育成することを目的とする。そのために生徒に身に付けさせたい力として次の2点を目標として取り組む。</p> <p>①論理的な思考力・判断力 ②実践的なコミュニケーション能力</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>従来、本校では論理的な思考力・判断力を鍛えるために教科・科目はもとより「総合的な学習の時間」で自己の在り方や生き方を深く考えさせる取組や「ドリームリアルプラン」という職場研修を軸にして自己のキャリアについて深く考えさせる取組を行ってきた。しかし、大学や企業との連携は本格的には実施していない。また、グローバル化に対応できる語学力等の交渉力は、生徒が海外で活躍するためには十分なものであるとは言えない状況である。さらに、他の教科においてもグローバルな観点が必要な現状にある。そこで、SGHの導入に伴い、次のようなことが期待できる。</p> <p>①SGHの導入に伴い、研究機関である山梨大学、山梨県立大学との連携によりハイレベルな課題探究ができ、論理的な思考力・判断力の養成につなげることができる。</p> <p>②現実に経済活動を展開している企業（サドヤ、勝沼醸造、JA山梨中央会、印傳屋上原勇七）との連携により、実践的な課題探究を行うことで、キャリア意識を高めることができる。</p> <p>③グローバルな課題探究に取り組むなかで、国際的な交渉を行う際に必要になる交渉力を高める取組により、世界のどこに行っても引けをとらないグローバルなコミュニケーション能力を身に付けることができる。</p> <p>④地歴公民科や芸術科のグローバルな視点の導入により、国際的な交渉に必要な異文化理解を深め、海外での調査研究の円滑化を図ることができる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>①他のSGH指定校と情報交換や交流活動を活発に行うことで、相互協力を推進する。</p> <p>②県内周辺高校を中心としたネットワークであるSGH連絡協議会を設置し、本校の取組や研究内容を適切に発信する。また、情報共有により共同研究の可能性も探る。</p> <p>③本校の取組の現状について、常にホームページで時宜を得た情報を提供し、学校関係者をはじめ、大学や企業等との連携が円滑になるように図り、今後のSGHの在り</p> | | | | | |

| | | |
|--|--|--|
| | | <p>方について広く意見を聞くことができる体制づくりを進める。</p> <p>④研究結果を「SGH研究集録」にまとめ、県内全高校と関係機関に送付し、内容を一般に公開する。</p> |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ -2 課題研究</p> | | <p>(1) 課題研究内容</p> <p>山梨県では、富士山の世界文化遺産登録、リニアモーターカーの実用化などを背景として、インバウンド観光を含めたグローバル戦略を提案・実行することが急務となっている。そこで、山梨が誇る産業である、山梨のワイン、桃等の果実、地場産業品、伝統工芸品、第1次産業の活性化を題材として課題研究を実施する。内容は、各対象品の世界的な評価を調査分析し、各物品および産業の在り方を探る。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>平成26年度は、「グローバルな視点を開く」をテーマとして学校設定科目「グローバル探究Ⅰ」の取組により進める。「論理的な思考力・判断力」、「実践的なコミュニケーション能力」の基礎作りを目指し、国内を中心とした実地調査および研究を行い、年度末に中間発表を行う。初年度は、生徒の視点を海外に開かせることを目標とする。具体的には、山梨大学および山梨県立大学との高大連携、地元企業との連携を中心に研究調査を進めていく。また、行政との連携を密に図り、ブランド推進課等には指導助言を受け、知事がワインや果樹のPRで海外に出向く際には本校生徒が随行できる体制を整備できるように協力を依頼する。検証評価については、大学と共同で開発するルーブリックにより行う。具体的には、年度末の生徒の中間発表を中心に、研究レポートや授業・実習態度等の内容を外部講師の評価も交えて評価を行う。</p> <p>大学・企業との連携によるグローバルな課題の探究を柱として、学校設定科目の「グローバル探究」において、将来グローバルに活躍できる人材の育成を行う。最終的にはグローバル戦略を提案し、実行することを目標とする。調査や研究のために、大学や企業と密接に連携をとり指導・助言・講義を受ける中で内容を深めていく。また、国内外の調査だけでなく、県や企業のPR活動に際し、海外に同行するなどの海外体験を積極的に導入する</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>課題探究の中心として学校設定科目「グローバル探究」を位置づける。</p> <p>1年次の「グローバル探究Ⅰ」（3単位）は、「総合的な学習の時間」（1単位）、情報科の「社会と情報」（1単位）を代替し、長期休業中の大学での集中講義（1単位）を含む。2年次の「グローバル探究Ⅱ」（1単位）、3年次の「グローバル探究Ⅲ」（1単位）と呼称するが「総合的な学習の時間」（1単位）で行う。</p> |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ -3 上記以外</p> | | <p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>教科・科目の中でグローバル人材育成に必要な力を身に付けられる次の取組を行う。</p> <p>①英語科では「英語表現」、「異文化理解」などの授業の中で、国際的な場面で正確に発信できる英語力を身に付けるために、ディスカッションやプレゼンテーションなどの発信力を意識した取組を行う。</p> <p>②地歴公民科では1年次の「世界史A」の授業の中で、常に世界とのリンクを意識したグローバルな視点を持つことを狙いとした取組を行う。</p> <p>③芸術科では1年次の「美術Ⅰ」「音楽Ⅰ」「書道Ⅰ」で日本文化の良さを認識しながら世界の文化に目を向け、様々な国内外の芸術作品に触れる機会を多く持たせることで、文化をグローバルに捉える視点を持つことを狙いとした取組を行う。</p> <p>検証評価は、各教科での活動をもとに行う。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバルリーダー育成に関する環境整備、教育課程外の取組内容・実施方法</p> <p>企業で活躍する同窓生等の活用によりリーダーシップ研修を行い、グローバルリーダーとしての資質向上を図る。また、調査研究に活用できるICTの推進を図る。</p> |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑨その他</p> | | <p>なし</p> |